

船橋三田会

10周年記念誌

平成20年5月

我々は慶應義塾と共にある



(三田キャンパス 塾旗)

見よ 風に鳴るわが旗を 新潮寄するあかつきの
嵐の中にはためきて 文化の護りたからかに
貫き樹てし誇りあり 樹てんかな この旗を
強く雄々しく樹てんかな ああわが義塾
慶應 慶應 慶應

(慶應義塾塾歌一番)

船橋三田会

10周年記念誌 目次

P.2 ご挨拶 「発行に寄せて」
船橋三田会会長 山下 功

P.3 ご挨拶 「船橋三田会を振り返って」
船橋三田会前会長 古井丸 雄彦

P.4 ノンフィクション・ドキュメンタリー
“一枚の葉書”
船橋三田会設立前夜譚

P.8 船橋三田会 10年間の歩み

P.13 同好会活動紹介

P.17 ゴルフ同好会のこと（寄稿文）
宮崎 靖司

P.19 10年間の記録集

P.20 船橋三田会前史
「船橋慶應会の当時の模様」
（座談会）

P.24 我々は慶應義塾と共にある

P.26 船橋三田会の10年後を展望して
「イメージ調査報告」

P.29 船橋三田会規約

P.30 歴代役員及び会員名簿

P.32 編集後記

発行に寄せて



船橋三田会会長
山下 功

ある古参の会員によると、「自分の高校生時代から船橋を縁とした塾員の会はあった」と聞いているが、現在の船橋三田会の組織は平成9年にスタートした。爾来10年間活動を続け、連合三田会にも加入して、大人の一步を踏み出した。

元早大総長奥島孝康氏の講演《慶應と早稲田》で日本には結束力の強い団体が三つある。日本共産党、創価学会、三田会である、早稲田稲門会も、やっと三田会の背中が見えてきた、と話された。三田会とは外から見ると羨ましがられる存在のようだ。

連合三田会のHPに「慶應に入学してよかったと思うのは大学を卒業してから」とある。三田会の主な効用として、人間関係のネットワークが広がる、情報収集に役立つ、が挙げられている。

船橋三田会会員には国会議員、教育委員、法人会会長、企業経営者、一流企業OB及び勤務者、弁護士、税理士、会計士、学校経営者、大学講師、仕事以外でも囲碁名人、ゴルフ名人、名文家、慶早戦泰斗など多岐に多士済々である。ただこの多彩な顔ぶれの会員の相互理解が出来、ネットワークが組まれているか、これはいまだしの感が強い。

今年二月に千葉合同三田会が発足し、船橋三田会会長が副会長の一席を指名された。

これは船橋三田会の特色であるビジネスフォーラム、福澤精神研究会、バラエティに富む同好会活動、会報“絆”の発行等々これまでの実績を評価されたものである。

ただ千葉県内17の地域三田会で船橋在住の塾員数第三位2290人、船橋三田会会員数9位99名の数字を見ると、まだまだ新しい出会いが待っていると思える。パワーは秘めているがまだ発揮されているとは言えない。

このパワーをどう引き出し、『楽しい』『為になる』三田会に育て、且つ、地域社会に三田会を認知させる活動が出来ることがこれからの課題である。

会員各位と力を合わせて実現に向け取り組んで行きたい。

船橋三田会を振り返って



船橋三田会前会長
古井丸雄彦

船橋三田会は40年位前からあったらしいのですが、連合三田会に未登録だったため、その存在を知られず、会員も増えることなく休眠状態だったようです。かかる事情を知らず創立の準備を始めた森田君など有志にとって吉種先輩からの一応は存在し近隣三田会との交流もあるとの申し出は寝耳に水の話でした。

しかしながら旧会員の皆様の大同団結しようとおおらかな精神に基づくご協力を得て、平成9年11月8日設立総会の運びとなり、新生船橋三田会号は幸先よく船橋港を出航しました。

平成11年早々に、当時私の経営する「ちゃんこ江戸沢谷津店」が花輪インターそばの習志野市にあった関係で斉藤賢二君（現在習志野市議会議員として大活躍中）と数名の方から習志野三田会を設立したいので協力をとの申し入れがありました。創立とはどんな場合でも大変で船橋三田会も再発足以来軌道にのせるのに苦勞しているので、とりあえず船橋三田会に所属し会員が増えて運営に馴れたら分離独立が良いのでは、との結論でした。

平成15年、思ってもみない会長の椅子に座らされた私は、日本中の中小企業経営者から「社長道場」と云われる中小企業家同友会で身につけた、ボスにならない、作らない、全員平等参加型の楽しい会運営を心がけました。

平成16年5月、かねてより念願の連合三田会入会が正式に承認されました。天下晴れて国内は勿論、海外でも塾員としてお付き合いできるようになった訳です。

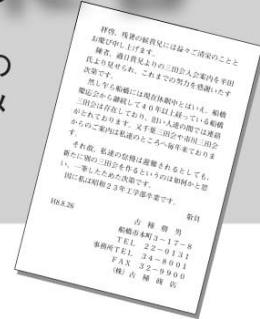
これを機会に若い会員（と云ってもこの度、政府から後期高齢者と決めつけられた私からみればですが）が増え、積極的な新役員の大活躍で、有益で楽しい活発な三田会に成長しつつあることは喜ばしい限りです。

設立当初、杖をつかれたり、痛む足を引きずるようにしてまで役員会にご出席下さった吉種会長、徳丸、富田両先輩をはじめとする旧役員にお贈りした退任記念品が「重宝で手離せなくなった。」「記念品は沢山戴いているが之は抜群のセンスだ。さすがは実学のKOボーイ。」などと皆様方からお褒めを頂き、いささか労にお報い出来たかなあと嬉しく思いました。平田君ら選考委員に敬意を表する次第です。

船橋三田会 設立前夜譚

“一枚の葉書”

本編は船橋三田会の設立準備活動中の模様を、ノンフィクション・ドキュメンタリー形式にまとめたものです。



第1章 喫茶店セピア

平成8年(1996年)9月11日(火) 晴れ

JR 船橋駅南口の駅前に、Face が建ちあがる前は、雑然とした商店街があったことをはっきりと思い出すのは難しい。森田茂男(昭48年法卒)は、Face の近くを通る時、商店街の奥まったところにあった古い喫茶店セピアを訪れた10年以上前のことを、時折、思い出すことがある。

平成不況と言われ、金融不安やデフレが、時代に暗い影を落とし始めた頃であり、船橋駅前の雑然とした雑踏の中を入っていくと、消費者金融の看板が、やたら目についた頃であった。街は、茶髪でルーズソックスの女子高生が目立ち、安室奈美恵や globe の音楽がどこかしこから聴こえてきた。

喫茶店セピアは、慶應出身の人物がマスターをしており、船橋慶應会のメンバーもよく集まる場所のようであった。平成8年9月のこの日、船橋三田会の設立準備活動を行っていた古井丸雄彦(昭31年文卒。後に二代目会長就任)や森田達は、既に40年以上前から船橋慶應会を前身とする船橋三田会があったとして、新たに別の三田会を作るのは如何なものかと葉書で連絡してきた吉種勝雄(故人。昭24年工卒。後に初代会長就任)や小海雄二(昭31年経卒)達との打ち合わせのために、初めてセピアを訪れた。

一年以上前から、船橋三田会の立ち上げに奔走していた森田にとって、既に船橋三田会は休眠中ながらも存在していたとの事実は、大きな驚きであった。設立準備のため、塾監局とも何回も相談を重ねていたため、今回も急いで連絡したところ、連合三田会に未登録で、その存在が分からなかったとしても、いったん判明した以上は一本化して発足して欲しいというのが、塾側の意向であった。森田は、この年の11月17日の日曜日に設立総会・発足式を開催する準備をしていたため、焦りも感じていたが、友好的に一本化することが、まず優先と考えた。

静かにジャズが流れている店内は思いのほか広く、落ち着いた雰囲気であった。香り高いコーヒーを飲みながらの話し合いは、森田の心配をよそに、自然に、一本化して船橋三田会を立ち上げる方向に進んでいった。午後3時過ぎに始まった打ち合わせは、会長や事

務局長を誰にするか、幹事をどうするか、事務局をどこに置くか、会員をどう集めるかなどの具体的な話に進展して、午後4時半頃には再度連絡を取り合うことを約して散会した。森田は、とりあえず11月の設立総会・発足式は、延期する方向で準備活動を行なっている他のメンバーに話をしようと思い、セピアを後にした。他のメンバーにもきっと理解してもらえると、手ごたえを感じていた。

第2章 塾監局塾員課

平成7年（1995年）10月26日（木）晴れ

「船橋在住の塾員の名簿は、プライバシーの問題があるので、現時点ではお渡しできません」

三田の塾監局塾員課の課長に面会し、現在船橋三田会の設立準備活動を行なっている旨説明をして、会員募集のため船橋在住の塾員名簿を求めたところ、この回答であった。

この日、森田はJRに乗り田町駅で降りた。久しぶりに訪れた三田のキャンパスは中庭の大銀杏が黄色く色づき、秋の気配が感じられた。あたりを見渡していると、卒業してからの20年以上の月日は消え去り、自分が塾生であった頃に戻っているような気がした。

「市川三田会や千葉三田会がありますので、隣接する三田会ともお会いになり、協力を求められてはいかがですか。まず環境を整えることが必要です」

塾員課の課長は、穏やかに、しかし厳然と、地域三田会の設立にあたっては、相当地道な努力が必要なことを話してくれた。また設立にあたり、準備委員会を組成することも勧めてくれた。

田町駅からの帰路、森田はいかにして船橋在住の塾員へアクセスするか考えた。自分の近いところにいる慶應出身の友人、知人の協力を得るにしても、気の遠くなる話である。とりあえず、船橋市役所の広報ふなばしに掲示板“市民のひろば”があるのを思い出し、準備会の会員募集広告を依頼してみようと思った。また、読売新聞や朝日新聞の地元の住民を対象にしたコーナーにも、同時にあってみようと思った。地道に塾員の輪を広げていく以外にないと、つくづく実感した。

実は、この後、広報ふなばしや読売新聞、朝日新聞などで、準備会の会員募集案内の掲載が認められ、これにより参加塾員は一人、二人と増えていった。平成8年4月には設立準備会が正式に結成され、この時の名簿では会員数24名となっている。



三田キャンパス 大銀杏

準備会の会合は、船橋市勤労市民センターなどを利用して、度々開催され、事業内容、規約、役員構成などの検討が進められた。

そんな中、準備会のメンバーである富田駒吉（昭25年文卒）の尽力もあり、平成8年5月に船橋在住の塾員名簿がついに手に入った。それによると船橋在住の塾員は2,172名であった。

第3章 一枚の葉書

平成8年（1996年）8月27日（火）曇り

この日、森田の家に一枚の葉書が届いた。差出人は、吉種勝雄（前出。初代会長）で、三田会入会案内を見て、船橋三田会が既に存在していることを知らせるものだった。それによると、自分達は、現在休眠中であるものの船橋慶應会から継続して40年以上経っており、千葉三田会や市川三田会からの案内も毎年来ているとあった。そして、新たに別の三田会を作るといのは如何かと思ひ、一筆したため次第と結んであった。

森田は準備会のメンバーと共に、11月に設立総会・発足式を開催する準備を進めており、会場も船橋グランドホテルを予約していた。

吉種が見たという三田会入会案内は、5月にようやく入手できた船橋在住の塾員名簿をもとに、メンバーで手分けして8月上旬に発送したものだ。

森田をはじめ準備会のメンバーは、大いに当惑した。連合三田会事務局に問い合わせたところ、先方は未登録であることが判明したが、実態がある以上、とりあえず一度面談しようとの結論になった。当時、準備会の方では会長選びが難航しており、先方との合流により展望が開けるとの期待もあった。

初回の面談は、9月3日の正午からホテル三田浜楽園のロビーで行なわれた。船橋慶應会側は、吉種勝雄（前出）、小海雄二（前出）、平田俊光（昭48年経卒）が出席し、準備会側は、田村光（昭31年文）、森田ほか1名であった。この時は、双方とも時間があまりなく、名刺交換に終始したため、近日中に再会して、そこで詳しい打ち合わせを行なうこととなった。

数日して、森田は吉種より、次回の打ち合わせは、9月11日午後3時から船橋駅南口の喫茶店セピアで行うとの連絡を貰った。

第4章 ホテル三田浜楽園

平成9年（1997年）11月8日（日）晴れ

船橋慶應会側との出会いから1年以上経過した、平成9年11月8日（日）に船橋三田会は正式に発足した。この日、設立総会・懇親会がホテル三田浜楽園で開催され、47名の会員が出席した。

喫茶店セピアでの打ち合わせの後、準備会のメンバーは船橋グランドホテルで開催を予

定していた設立総会・発足式をキャンセルし、その後、あらためて双方で準備会合を重ねていった。交流は深まり、スムーズに一本化していった。会員の加入も着実に進み、設立総会における会員数は、112名にのぼった。

初代会長には、吉種勝雄が就任することになった。

森田は、壇上に上がった吉種会長の挨拶を聞いていて、ここまで2年以上かかったことに、不思議と実感はなかった。そして、吉種から届いた一枚の葉書を思い出し、紆余曲折があったにしても、あの時からこの日が来ることは、決まっていたように感じた。

秋の一日は短い。設立総会が終了し、懇親会に移る午後6時頃には、三田浜楽園の会場に明かりが灯り、窓の外の暗闇が際立った。(了)

(あとがき)

本編は、設立準備活動中の平成7年から平成9年にかけて森田君がつけていた克明な記録を基に、作成したものです。しかしながら、筆者の創作による部分もあり、実名で登場された方々には、場合によっては失礼があったかもしれません。ご容赦賜れば幸甚です。

喫茶店セピアは、現在もJR船橋駅と京成船橋駅を結ぶ小道にあり、店内は昭和レトロを感じさせ、スパゲッティやホットドッグでファンの多い有名店です。船橋三田会の会員である石毛潔君(昭30年法卒)がマスターですので、興味のある方は一度訪れてください。

三田浜楽園は、川端康成が逗留して小説「童謡」を書いた場所として知られ、経営者は平田俊光君(前出)で、船橋三田会の総会などが度々開催されました。ホスピタリティー溢れる接客と見事な料理で多くの塾員に愛されましたが、残念ながら平成18年3月に、惜しまれながら閉館となりました。

(文責 井上)

船橋三田会 10年の歩み

平成9年(1997)

11月8日 船橋三田会発足

三田浜楽園において、設立総会が開催され、正式に船橋三田会が発足しました(出席は会員112名のうち47名)。初代会長は吉種勝雄君(S24工)。総会後の懇親会では、初対面の方も多く、初めは少々緊張気味でしたが最後は「若き血」を皆で歌い塾員の一体感を実感しました。



挨拶される吉種勝雄初代会長



出席者全員で記念撮影

平成10年(1998)

6月13日 初めての事業(講演会)開催

演題「暮らしの中の異文化コミュニケーション」講師/井上愛子君(H元法)

11月7日 同好会事業についてのアンケート調査実施

会の活性化のために定時総会にてアンケートを実施したところ、ゴルフコンペ講演会、音楽会・観劇会等の希望があり、役員会で検討する事となりました。

平成11年(1999)

3月22日 野球観戦(千葉マリスタジアム)

千葉ロッテ対巨人のオープン戦を観戦しました。

5月 ゴルフ同好会発足

前年のアンケート結果を踏まえ、平田俊光君(S48経)を中心にゴルフ同好会を発足。5月6日には初めてのコンペが、一の宮カントリー倶楽部にておこなわれました。現在も活発に活動しています。

平成
12年
(2000)

11月11日 定時総会・懇親会

総会前に講演会を開催。演題「一身二生の人福澤諭吉」。講師は慶應義塾大学名誉教授の西川俊作氏。福澤先生のことを改めて学べるよい機会となりました。また、懇親会では三田会クイズを実施。会員からは「むずかしい～」との声も。

平成
13年
(2001)

6月 囲碁同好会発足

船矢雅雄君（S27 経）を中心に囲碁同好会を発足。9日には津田沼囲碁クラブにおいて第一回の会合がもたれました。その後早慶の対抗戦を行うなど、活動の場を広げています。

平成
14年
(2002)

8月3日 初めての納涼企画（納涼ビアパーティー）

サッポロビール千葉工場ビール園へ。ビール工場では工場長等に迎えていただき、工場見学、試飲の後、ビール園でバーベキューとビールに舌鼓を打ちながら、14名の参加者は楽しいひとときを過ごしました。

平成
15年
(2003)

11月15日 定時総会・懇親会

役員改選が行われ、新会長に古井丸雄彦君（S31 文）が就任しました。

平成
16年
(2004)

5月13日 連合三田会より登録三田会（地域）に承認される

船橋三田会も、正式な連合三田会の一員となりました。

7月17日 納涼親睦会（屋形船）

浦安からの屋形船でお料理を楽しみながら、クイズ、ビンゴ等大いに盛り上がりました。家族での参加もあり、新しい交流の輪が広がりました。

10月17日 連合三田会大会参加

会として初めて連合三田会大会に出かけました。お楽しみの抽選の大当たりはありませんでしたが、久しぶりの日吉キャンパスを満喫しました。

5月2日 慶早戦観戦会

27年ぶりの完全優勝をかけての一戦。手に汗握る白熱した試合でしたが、早稲田の胴上げを阻み慶應の勝利。興奮冷めやらず銀座にくりだしての祝勝会。

「勝ててよかった」（…結局早稲田の優勝に終わりましたが）

6月1日 連合三田会定時常議員会（帝国ホテル）出席

登録三田会として、鳥居勝一君（S38 法修）、宮原茂君（S48 工）、森田茂男君（S48 法）の3名が出席しました。

7月13日 納涼親睦会（はとバス「中華バイキングとニューハーフショー」）

新宿「アルカザール」でショーを見た後、ホテルニューオータニ「ブルースカイ」にて中華バイキングをいただきました。参加者は20名。

7月15日 八千代三田会「ブラームス会」に出席

八千代三田会梶原潔様のご好意で、平田君、宮原君、森田君が出席。近隣三田会との交流が始まりました。

8月4日 プロ野球観戦会（千葉マリスタジアム）

千葉ロッテ対東北楽天戦を観戦。船橋三田会の応援が功を奏してか、この年地元球団千葉ロッテはパリーグ制覇、日本一、アジア一となりました。

8月 ホームページ開設

西村保博君（S48 文）の尽力により、待望のホームページが完成しました。会員増強、会員相互の交流に今も大活躍です。

10月21日 船橋塾員交流会（船橋西武「銀座アスター」）

会員増強の一環として、会として初めての試みである交流会を開催しました。今回のターゲットは昭和45年～50年卒の「団塊の世代」。初対面にもかかわらず、大いに盛り上がりました。この会を機に少々停滞気味だった会の雰囲気も一転、活発な活動が行われるようになりました。団塊世代恐るべし？



5月28日 慶早戦観戦会

今回は吉崎信一君（S37 商）の尽力により、学生応援席で観戦しました。何十年ぶりの応援は楽しかったのですが、やはり疲れしました。でもこの興奮は忘れられません。会員からは次回も学生応援席を期待する声。

7月30日 納涼親睦会（はとバス「六本木ヒルズとディナークルーズ」）

何かと話題になった六本木ヒルズ見学の後、東京湾ディナークルーズに出発。海からの東京の夜景にしばし酔いしれました。参加者 26 名。

**12月17日 クリスマスパティー（船橋グランドホテル）**

初めてのクリスマスパーティーを開きました。家族連れの参加も多く、総会とは一味違った和やかな雰囲気の良い会となりました。抽選会では慶應グッズが数多く用意され、愛塾精神をちょっとくすぐられる演出。ハワイアンバンドによる軽やかな「若き血」「塾歌」は皆初体験。

*平成18年は会の発足10周年を前に大いに盛り上がった1年でした。同好会も次々と発足。福澤精神研究会、ロシア語勉強会、ダンス同好会など、存分に楽しんでいます。

2月14日 千葉県内三田会会長会（ホテルザ・マンハッタン）

千葉三田会の川口幸雄会長の音頭で、県内三田会会長会が開催され、船橋三田会からは古井丸君、森田君、西村君が出席しました。

7月8日 若手懇親ゴルフコンペ

初の試みとして、30代40代の若手会員の懇親と会員増強を目的に、ゴルフコンペを袖ヶ浦CCにおいて開催しました。当日は8名の方が参加。初対面のメンバーながら楽しくラウンドでき、塾の絆を再認識しました。懇親会でもプライベートや仕事の話に業種を越えて大いに盛り上がりました。

7月21日 納涼親睦会(屋形船)

浦安から納涼船「屋形船」で東京湾に出ました。風の影響で花火を見ることはできませんでしたが、29名の参加者は、ビンゴ、クイズ、カラオケと盛りだくさんな企画とお料理に満腹となりました。華を添えてくださった平田君の二人のお嬢様にも感謝です。



納涼親睦会

10月27日 10周年記念定時総会・懇親会(船橋グランドホテル)

当日は、台風の接近で暴風雨にもかかわらず、来賓の方々を含め60名あまりの方が出席してくださいました。総会では役員改選により、山下功君(S36政)が新会長に就任しました。今年新たに「絆」というテーマを設けた懇親会では各同好会からの企画が目白押しで、「ダンス同好会」講師によるワンポイントレッスン、「英語カラオケ同好会」講師ライアン先生のギター弾き語り、さらに「ロシア語同好会」講師のマリア先生による景品渡しとロシア語スピーチ(同好会メンバーの方の通訳?付き)と続き、最後は中山行君(H19文)のもと慶應応援歌を5曲歌いまくり、文字通り「絆」を深めてお開きとなりました。



10周年記念総会

同好会活動紹介

ゴルフ同好会

最も歴史のある同好会です。ゴルフは幅広い年齢層で一緒ラウンドでき、本同好会は定期的に会員交流を活発化する良い場となっています。この度20回を記念するゴルフ大会（平成19年12月14日（金）久能カントリー倶楽部）が開催されました。夏には北海道遠征など活動範囲を広げ、会員同士がより深い「絆」を深めています。ラウンド前の体育会ゴルフ部OB布川君によるレッスン会もとても好評です。



第1回ゴルフレッスン会の模様
平成19年1月8日
総武CC印旛コース



第19回親睦ゴルフコンペ
平成19年7月6日
太平洋クラブ成田コース



北海道ゴルフツアー
平成19年8月21日・22日
シャムロックカントリー倶楽部
ザ・ノースカントリーゴルフ
クラブ



ススキノでの「夜の懇親会？」
の模様

囲碁同好会

山下君（慶應囲碁部OB O G 会会長）を中心に平成18年1月より月に一度の定例会開催のほか、千葉慶早戦を開催しています。塾出身で人気ナンバーワンの女流棋士梅澤由香里君が初タイトルを獲得した際には塾関係者で祝賀会を催し、船橋三田会囲碁部からも5名出席しました。



福澤精神研究会

塾員として福澤先生の志を学ぶべく、慶應義塾「福澤研究センター」のご協力を得て、研究会が発足しました。講師として大学院出たての若手研究者をお招きしています。テーマは「福澤諭吉と大隈重信」など、塾員として意外に知らない「福澤先生」について勉強の場を提供しています。



ビジネスフォーラム

平成18年2月に発足し、「ビジネスに即、役立つ知識の提供」をテーマに多彩なテーマで講師を招いて勉強会を開催しています。今までのテーマとしては「エモーショナル・マーケティング」、「常識としての『論語』」、「大地震とその予知システムの問題」「巨大地震は必ず来る！その10秒が命を守る」など毎回興味深いテーマで直ぐに役に立つ情報が提供されています。



テーマ「エモーショナル・マーケティング」
講師の長谷川先生の度肝を抜かれるイデタチと、お話にあった「現代若者気質」には驚く



テーマは「常識としての『論語』」でした。
講師：大東文化大学地域連携センター
講師 打越 竜也 様



テーマ「大地震とその予知システムの問題」「巨大地震は必ず来る！その10秒が命を守る - P波とS波との差の『黄金の時間』10秒があなたを救う！」と題してJEITA 緊急地震速報・実証試験プロジェクト 運営事務局・信州大学経済学部講 杉原義得様

書道愛好会

講師に慶應普通部などでも指導されている竹中青琥先生（日展会友、元横浜国立大学講師）を講師に、県展に出品したい、写経をしたい、色紙に揮毫、俳句の短冊作成、書初め、季節のことばを書く、座右の銘、好きな一字の習得、署名など個人的に目指す書を指導していただいています。

音楽鑑賞会

慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ定期演奏会を案内しています。(平成19年2月サントリーホール、6月すみだトリフォニーホール、10月横浜みなとみらい大ホール)



映画鑑賞会

平成19年8月「船橋三田会映画鑑賞会」(同好会)が発足しました。定期的に映画鑑賞することで、日頃のストレスフルの仕事から解放され、リフレッシュを目的としています。鑑賞の後は「意見交換食事会」なども企画されています。

クリスマスパーティー

平成18年度より恒例となりましたクリスマスパーティーです(船橋グランドホテル)。塾員やそのご子女の楽器(バイオリン、ハワイアンバンド、ウクレレなど)演奏、クイズ大会、抽選会など子供から大人まで家族で楽しめるイベントとなっています。



メンバーご子女によるバイオリンの演奏(東京芸大を卒業され、ヨーロッパのコンクールで入賞されています)



八千代三田会の原口守正さん(昭和38年法卒)が中心のラテン・バンド「ラテンパリエダ」の演奏。

納涼親睦会

会員、そしてご家族同士の交流を図る目的で毎年夏に納涼親睦会を開催しています。平成18年は、はとばすツアー「六本木ヒルズと極上の夜景シンフォニーディナークルーズ」に行ってまいりました。総勢26名。前年のはとばすツアーより参加者が増え、「六本木ヒルズ」も「ディナークルーズ」も初めてという方が多く楽しんで頂けたようです。

平成19年はディズニーランドの夜景を楽しみながら「屋形船」で大宴会となりました。

(文責 浅見)



ディズニーランドの夜景を楽しみながら「屋形船」



六本木ヒルズと極上の夜景シンフォニーディナークルーズ



ゴルフ同好会のこと

寄稿

宮崎靖司（昭和 28 年経済卒）平成 20 年 3 月 8 日執筆

ゴルフ同好会が発足以来、遥るけくも 9 年が経ちコンペティション開催も 20 回に達しました。

平成 11 年 5 月 6 日、九十九里の南端に位置する一の宮 CC が皮切りのコースでした。

夫れ以来、平均して年 2 回のペースで順調に推移、第 20 回開催記念では優勝 CUP も寄贈され誉れある歴代優勝者の名前も刻まれました。開催コースはゴルファーにとって憧れの的である久能 CC でした。参加経験のある諸兄姉にとっては思い出多い事でしょう。

同コースでの開催は 3 回目の昨年（平成 19 年）12 月 14 日、栄光の優勝者は安川崇君でした。第 21 回も、超名門の藤ヶ谷 CC とあって多くの参加者が殺到、盛会が期待されています。

先ず、過去の記録を振り返れば、ざっと次の様な具合です。

- 20 回の延べ参加者 257 名（1 回平均 13 名）
- 最多利用コース 久能 CC、茂原 CC 共に 3 回
- 最多優勝回数 安川崇君、布川義久君 共に 4 回
- 船橋三田会名簿記載人数 100 名中、趣味欄に「ゴルフ」と記載ある者 33 名

（日本人の成人ゴルファーは 4 人に 1 人）

最初の頃積極的に参加頂いた諸先輩、同僚の内、年月の経過と共に何人かは既に引退、非常に寂しい次第ですが、其の一方、新鋭気鋭の同好の仲間も新たに加わって盛況を極め、第 20 回の表彰、親睦会は河岸を変えて地元の“木曾路”に集合、和やかな上にも賑やかに歓談致しました。亦、此処 2 年は夏場に北海道まで足を伸ばして、グルメをも堪能しながら親睦の度合いを深め、夢を失わずに今年も計画して居ります。（註 1）

斯様に全員揃って親交に努め、盛り上げてきた足取りを思えば、実に“絆”の然らしめる処であって感無量と言うべく、今後の発展も大いに期待される次第です。

事ほど左様に、最近では内外の評判も頗る良好であり、域外の三田会、並びに知人関係者の参加もあって、“有朋自遠方来不亦乐乎”の面目躍如です。

此処で息抜きにエピソードを一つ、平成 11 年 11 月 26 日の事でしたが、真名 CC の Gary Player コースを紹介頂いた内田収三さん（註 2）が、臨時参加を希望され、事の序でに優勝されました。表彰、懇親の最中、“バンカーは、如何にすれば良いのでしょうか？”と、訊ねる者あって、“それは入れない事です”と当意即妙のコメント、全員の拍手喝采

廃していたので、電車も木造のオンボロ電車で、学校に行くことでさえ一苦勞でした。

堀越：そうですね。学校の周辺には学生が遊んだり集まったりする場所も無く、講義が終わってから何もやることが無かった。講義以外の楽しみとして、同じ地域の学生で集まるようになりました。「君も船橋か、じゃあ同じ地元なので一緒に遊ぼうか」とね。当時はよく船橋ヘルスセンターで野球などをして遊んでいました。

中でも私は昭和 21 年に行った新年会が今でも印象的です。先輩の藤田さんのご自宅に 24.5 名集まって皆で楽しんだのが今でも覚えています。とにかくモノが無い時代で、日本酒やウイスキーはなかったけれど、各自で色々な物を持ち寄って、質の悪い酒なんかを引っ掛けて悪酔いしてね。若い頃なんで楽しみがないとやってられないけど、今とは違った深みのある付き合いができたと思います。

小海：保田の合宿では手作りの三色旗を作って、民宿の入り口に掲げていました。そうすると自然に女子学生が集まって来たりして、本当に楽しかったですよね。

宮崎：そうですね。女子学生から当時貴重な食べ物など分けてもらい、今で言う合コンなどしたものです。我々にとっては、あの頃はまさに青春時代のハイライトですね。

井上：なるほど、今とは随分違っていたように思えますが、青春時代の思い出としては、普遍的な要素があるのではないのでしょうか。船橋慶應会では合宿の他にどのような活動をされていたのですか？

堀越：俳句会もやっていました。近藤さんという文学部の方がいたので、近藤さんを中心に俳句を作っていました。他にも船橋近辺でダンスパーティーをやったり、船橋女学校の生徒と一緒に混声合唱をやっていました。

宮崎：私は昭和 24.5 年頃に船橋の小学校で映画の上映会もやりました。船橋で何か社会貢献をしようと思い、船橋じゅうの小学校を回って外国文学などの映画を上映しました。本当は船橋慶應会の運営資金集めの目的で始めたけれども、学校側があまりお金を出してもらえず、苦勞してしまいましたよ。そこで船橋慶應会の友人の父が見かねて、全てお金を出していただいて成功させた思い出があります。他にも昭和 26.7 年頃には同人雑誌を皆で作ったりもしていました。ただ、私の頃は学生が中心に活動していて、卒業した後は各々会社で忙しくなり、船橋慶應会にはほとんど参加しなくなりましたね。

井上：他の皆様も船橋慶應会は学生の頃だけで、卒業後はあまり活動されていなかったのですか？

小海：われわれの頃は卒業後も三田会と

しては動いていました。ただ現役の学生はほとんど参加しなくなってきたと思います。もうその頃は、東京の街の中や学校のそばに学生が集まったり、遊んだりするところができ、船橋で集まる必要性が薄くなったことが背景にあると思います。

安川：合宿は昭和30年ぐらいまでで、それ以降自然となくなっていました。合宿の中心は学生であったので、社会人になると各々が忙しくなり、集まることもできなくなりました。ただ、船橋慶應会が休眠中にも市川や千葉の三田会の誘いもたまに来ていて、それに参加することもありました。

森田：それではどの段階からOB中心の会になり、「三田会」という名称になって活動が行われたのでしょうか？

田中：昭和45年ごろに船橋慶應会から船橋三田会に名前が変わっていたと思います。昭和50年ごろに送られてきた名簿に書いてあった記憶があります。

小海：そうですね。確か、昭和52、3年頃に船橋慶應会の会長さんが活動を再開させたように思います。しかし、その会長さんがさる塾出身の国会議員の選挙で選挙違反となってしまう、会長の逮捕という前代未聞の事態になってしまったので、船橋三田会としての活動は全くできなくなってしまいました。それ以降、船橋三田会は完全に休眠状態になったのだと思

います。

森田：それは私達もまったく知らなかったですね。その後しばらく時間が経った後に、私が船橋に三田会が無いことに疑問を持ち、現在の三田会の立ち上げに至ったのです。しかし、立ち上げの準備が整いつつある頃に、休眠中の旧船橋三田会の吉種さんから連絡があり、協議の結果、新・旧の三田会が合併する流れになりました。

井上：なるほど。船橋三田会は大きな時代の流れとともに変遷していったのですね。船橋慶應会は戦後の荒廃した時期に、物が無い中で塾生の地元での集いとして自然発生的に立ち上がり、その後復興が進むとともに、学生は街に出て行き、塾員が活動の中心となり、高度成長期の頃は塾員も仕事一直線で船橋慶應会が疎遠になり、さらに会長の選挙違反というショックもあり全くの休眠状態になった。その後、年月が経ち、船橋にも三田会を興そうという思いが燃り、森田さんを中心として新たに立ち上げられ、現在まで至っているのですね。

本日は、大変貴重なお話をお聞かせ頂き誠に有難うございました。

(文責 船木)

我々は慶應義塾と 共にある

船橋三田会の目的は、規約第3条に「本会は会員相互の親睦を図ると共に、慶應義塾の発展に寄与することを目的とする。」とあります。

しかし、その究極の意義を考えると、塾員としての一体感と、慶應義塾をそれぞれの立場で支える社中協力にあるのではないのでしょうか。

船橋三田会の活動の中で、この“我々は慶應義塾と共にある”との想いを、強く感じることができると思います。

①総会

会員が全員集まる場として、年に1回行われています。



塾歌斉唱やさまざまな楽しいアトラクションを食事と共に楽しみ、最後には応援歌を皆で歌い、絆を確かめ合います。

②福澤精神研究会

福澤先生の教えを学び、塾員として慶應義塾への絆を再確認しようと活動しています。研究者の方をお招きして、興味深い話を伺っています。福澤精神を、自らの人生の指針として活かすべく学んでいます。



③慶早戦観戦：

神宮球場で学生時代の気分に戻って応援席での観戦をしています。

懐かしい応援歌「塾歌」「若き血」「慶應讃歌」。

声はりあげて歌い肩をくんでの応援をし。学生時代を懐かしむと共に、塾員としての自覚を深めるよい機会となっています。



最後に、我々が船橋三田会で塾員として活動している中で、なぜ慶應は結束力が強いのかということを考えさせられることがあります。

三田会のホームページに掲載されていた島田裕巳著「慶應三田会 組織とその全貌」にその答えのひとつがあったように思いますので以下に引用します。

他の答えがあるとしたら、これから私たちの活動の中で見つけていけると信じています。

慶應義塾の同窓会がいつ始まったかは定かでない。

徳川幕府の時代の終末を象徴する上野彰義隊の戦いの当日も勉強を続けた塾生たちが、十年後に再会するのを祝する福澤諭吉の書面や、神戸在住の塾生の集まりへの福澤の書簡が残されている。

これらを読むと、福澤が早くから、卒業生同士の交際や助け合いを、学校活動の本質的な役割のひとつとして強く奨励していたことがわかる。

日本には、700以上の大学が存在し、それぞれの大学には同窓会が設置されているが、慶應の三田会ほど結束力の強い同窓会は存在しない。「連合三田会」のホームページを見ると、そこには、「慶應に入学して良かったと思うのは、大学を卒業してから」と記されている。

慶應の場合、大学は150年の歴史を持ち、三田会にも伝統がある。

最も重要なことは、同窓生を結束させるための理念があるかどうかである。

慶應には、「社中協力」という明確な理念があり、それは大学における教育の中で生きた理念として学生達に伝えられているのである。

(文責 布川)

「イメージ調査報告」

船橋三田会は、2007年11月で設立以来10周年を迎えましたが、この機会に、10年後の2017年11月における姿を展望したイメージ調査を行いました。その結果をここにご報告申し上げます。実際に2017年(平成29年)になり、20周年を迎えた時、時の流れにより、変わったもの、変わらなかったものを、タイム・カプセルを取り出すようにして、このイメージ調査の結果と現実の姿とを比較してみてください。

調査は平成19年1月～3月にかけて行い、38名の会員からご回答を頂戴致しました。ご協力に感謝申し上げます。

1. イメージ調査の結果について

(1) 年会費について

***現状維持の3,000円が半数以上。**

現在の3,000円のままとの回答が55.3%、5,000円程度に上がっているとの回答が42.1%でした。現在よりも安くなっているとの回答者も1名おられました。半数以上の方が現状維持を予想しておられます。

(2) 会員数について

***会員数増加の予想が圧倒的多数。**

圧倒的多数の86.8%の方が増加していると考えておられます。非常に心強く感じました。

(3) 現在の行事や同好会のうち10年後も存続しているのはどこでしょう。

***慶早戦、ゴルフ、クリスマス・パーティーがベスト3。**

ベスト3は次の通りです。

第1位	慶早戦観戦会	28名 (73.7%)
第2位	ゴルフ同好会	27名 (71.1%)
第3位	クリスマス・パーティー	26名 (68.4%)

以下、納涼親睦会、囲碁同好会と続きます。

(4) 現在はないものの、10年後には活動している行事、同好会は何でしょう。

***社会貢献ボランティア活動が第1位。**

ベスト3は次の通りです。

第1位	社会貢献ボランティア活動	23名 (60.1%)
第2位	ウォーキング同好会	20名 (52.6%)
第3位	写真同好会	13名 (34.2%)

社会貢献ボランティア活動の第1位は、意外性があります。しかし、時代を反映しているのかもしれませんが。特に団塊世代の昭和45年卒～昭和50年卒の方の回答が多いのが特徴です。退職後の生きがいの意味もあるのかもしれませんが。今後の船橋三田会の一つの方向性を示しているとも言えそうです。

(5) 近隣の三田会との合併、統合の可能性について

***半数以上が合併、統合の可能性を考えています。**

「合併、統合の検討を行なっている」と「合併、統合している」の合計は、24名(63.2%)となりました。道州制の論議が、今後、日本の閉塞感を打破する手段として、現実味を増してくるとの見方があります。人口減少社会における行政効率向上の究極策とも言われています。道州制は、市町村の合併、統合も含まれますので、船橋市も合併、統合が具体化する時が来るかもしれません。“船橋”の名前に愛着は強くありますが、我々の三田会も影響を受ける可能性があります。千葉合同三田会が結成されましたが、時代がこれから大きく変わっていくのかもしれません。

(6) 20周年の記念パーティーについて

***記念パーティー開催が圧倒的多数。塾長招聘は、努力目標。**

「塾長を招聘して記念パーティーを開催」と「塾長は招聘できなかったが、記念パーティーを開催」の合計は、36名(94.7%)と圧倒的多数でした。10年後には、塾長を招聘できる船橋三田会になりたいと思います。

2. イメージ調査集計結果について

(1) 年会費はいくらになっていると思いますか？

① 2,000円 (現在よりも安くなっている)	1名 (2.6%)
② 3,000円 (現在の年会費のまま)	21名 (55.3%)
③ 5,000円程度 (現在よりも高くなっている)	16名 (42.1%)

(2) 会員数は何人位になっていると思いますか？

① 100人以下 (現在よりも減少している)	0名 (-)
② 約100名 (現在並)	5名 (13.2%)
③ 150人程度 (現在よりも増加している)	33名 (86.8%)

編集後記

船橋三田会の10周年記念事業として、記念誌を編纂する事になり、編集委員会を組成して、ほぼ1年がかりで制作に取り組みました。編集方針としては、10年史としてこれまでの10年間の歩みを正確に記録するとともに、次の10年間にも眼を向けようといったものです。それは、過去を語りながらも、未来を展望することができればとの想いでした。

山下会長をはじめ編集委員全員の力で、遅ればせながらも、ここになんとか完成にこぎつけることができました。原稿等をご寄稿頂いた皆様、広告の掲載にご協力賜った皆様に厚く御礼申し上げます。会員をはじめとして、多くの皆様にご愛読頂ければ誠に幸いです。

最後に、船橋三田会のHPが出来た頃に新入会員募集のコラムに掲載していたフレーズを再度引用させていただきます。

<大切なことは、眼には見えない。仲間にならない限り、本当のことは分からない。>

L'essentiel est invisible pour les yeux. On ne connaît que les choses que l'on apprivoise.

サン・テクジュペリ著“星の王子様”より

(文責 井上)

10周年記念誌編集委員 (あいうえお順)

浅見 孝 井上 慎一 上田 則夫 上田 道子 平田 俊光 布川 義久
船木 諒 宮崎 靖司 森田 茂男 山下 功

船橋三田会 10周年記念誌

発行日 平成20年5月31日

発行人 山下 功

編集人 10周年記念誌編集委員会



(三田キャンパス 福澤諭吉像)

往け 涯りなきこの道を 究めていよよ遠くとも
わが手に執れる炬火は 叡知の光あきらかに
ゆくて正しく照らすなり 往かんかなこの道を
遠く遙けく往かんかな ああわが義塾
慶應 慶應 慶應

(慶應義塾塾歌二番)

